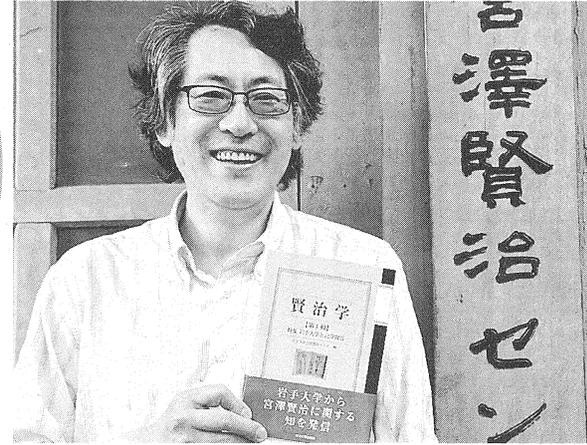


研究者やファンらのコラム、エッセーの書籍刊行 岩手大センター

賢治を愛する人に



「賢治学 第1輯」を手にする山本昭彦教授—盛岡市上田3の岩手大で

宮沢賢治
の人となりや作品を多方面から知ってもらおうと、岩手大宮沢賢治センター(盛岡市上田3)が今月、賢治研究者やファンらのコラム、エッセーをまとめた書籍「賢治学第1輯」(東海大学出版部・税込込み17280円)を刊行した。学術的で難解なテーマは避け、同センターは「賢治を愛する人に手に取ってもらいたい」と期待する。

【春増翔太】

「葡萄酒」(トマト豆、甘酒などを作り、ケチャップ)などと書かれたレトロなデザインのカラーラベルを作った。中野さんは、そのラベル類、賢治と無関係と思える写真の多い料理店「注文並ぶページがある。料理研究家、中野由貴さんが寄稿した「盛岡高等農林学校のおいしうなものたち」だ。また、宮沢賢治記念館(花巻市)の牛崎敏時、実習でシヤムや納

盛岡高等農林学校 実習で作ったラベルも紹介

震災後に各地で「雨ニモマケズ」が朗読されたことや、賢治が生まれた年に三陸大津波、没年に昭和三陸津波があったことなどを挙げ、「賢治と震災」をテーマに文章を寄せた。いずれも軟らかい調子で、寄稿者は約20人。岩手の賢治研究ではこれまで、論文をまとめた研究紀要や書籍があったが、内容は難しく価格も1冊5000円程度。同センター代表の山本昭彦・人文社会科学部教授(比較文学)は「一般の方が手に取るものではなかった。広く賢治愛好者に向けた本を出したかった」と、昨秋の構想から約半年で編んだ。大学ノートふうの装丁で文字を大きくするなどし、読みやすくした。

編集後記に「被災した街の復興には広場が不可欠。センターは賢治を愛する者の広場」と記した岩大教育学部の大野真男教授(日本語学)は、「毎年1回の刊行を目指す。センター会員(入会無料)なら誰でも投稿歓迎」と話す。問い合わせはセンター事務局(☎019・621・6672)。